

第4回 JOFC名古屋総会 会長メッセージ

平成22年第4回JOFC名古屋総会が無事開催され、ご準備いただいた名古屋フィル・ファンクラブの皆さんをはじめ名古屋フィル事務局、楽団員の皆さんまた関係者の皆さん、本当にありがとうございました。JOFCを代表して心からお礼を申し上げます。公務にてこの場に参加できないことお詫び申し上げます。

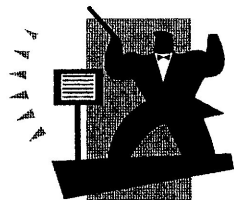
昨年の高崎総会で名古屋フィル・ファンクラブ、石川県立音楽堂楽友会の正式参加で全国7団体のJOFC日本プロオーケストラファンクラブ協議会になりました。昨年の高崎総会で特に、群響・山響・名フィル等ファンクラブの若い方々が堂々と発言され、まさにJOFCの力になってきたことがとても嬉しく感じました。また、各オケとの連携に苦しんでいる姿も共有できたことも大きいと思います。ファンクラブのもつ多様性と可能性を感じさせる大会と思いました。

JOFCこの集まりのあったかさが何より大切にしたいことです。各ファンクラブのおらがまちのオケを大切に思う心と、お互いが学ぼうとする姿勢と開催ホスト側の精一杯のおもてなしがあつてこそと感じました。開催規模の大きさを誇るのではなく、参加者が一人ひとり何を感じ、何をしようと思えて、いかに楽しく集えるかを基本におきたいと感じています。ファンクラブの形態は問わず、集うことで何かが生まれると思います。

平成21年12月、年の瀬におきた「事業仕分け」に各プロオーケストラは悲鳴を上げました。山響ファンクラブの呼掛けに、JOFCも果敢な対応をし、意味のあるおらが町のオーケストラに対して事業補助を削減しないようにとのパブリックコメント提言活動を全国に展開しました。国に対して音楽文化創造は意味のある事業であることを、もっと大きく声を上げていく必要性を大きく感じました。

最後に申し上げたいことは、オーケストラがあつてあたりまえというまちでありたい。オーケストラを市民が支えることがあたりまえというまちでありたい。オーケストラを企業が応援するのがあたりまえというまちでありたい。オーケストラを聴くって良いもんだという「うねり」をまちにつくっていかうではありませんか。

平成22年9月4日
JOFC会長



上田文雄